■フィールドワーク須玉の食ごよみ（マップ編）

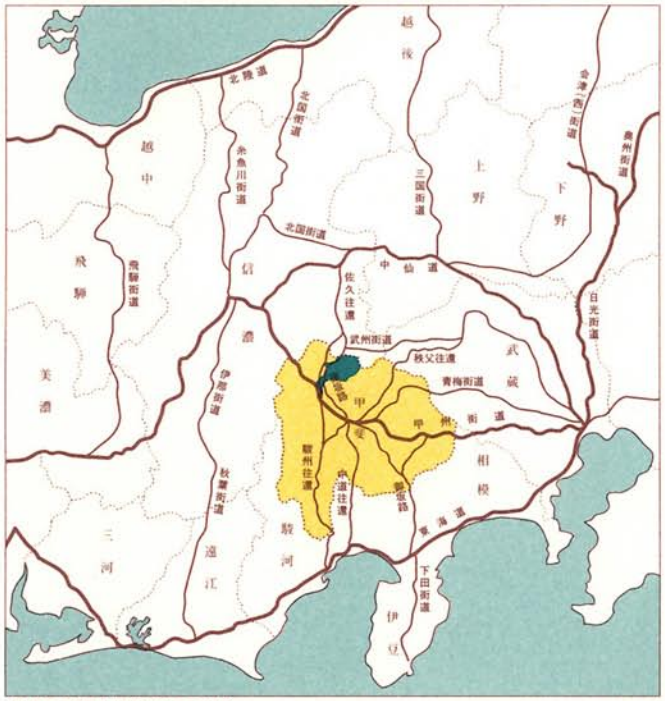
須玉の風土と暮らしマップ

Sutama：The Land and its People

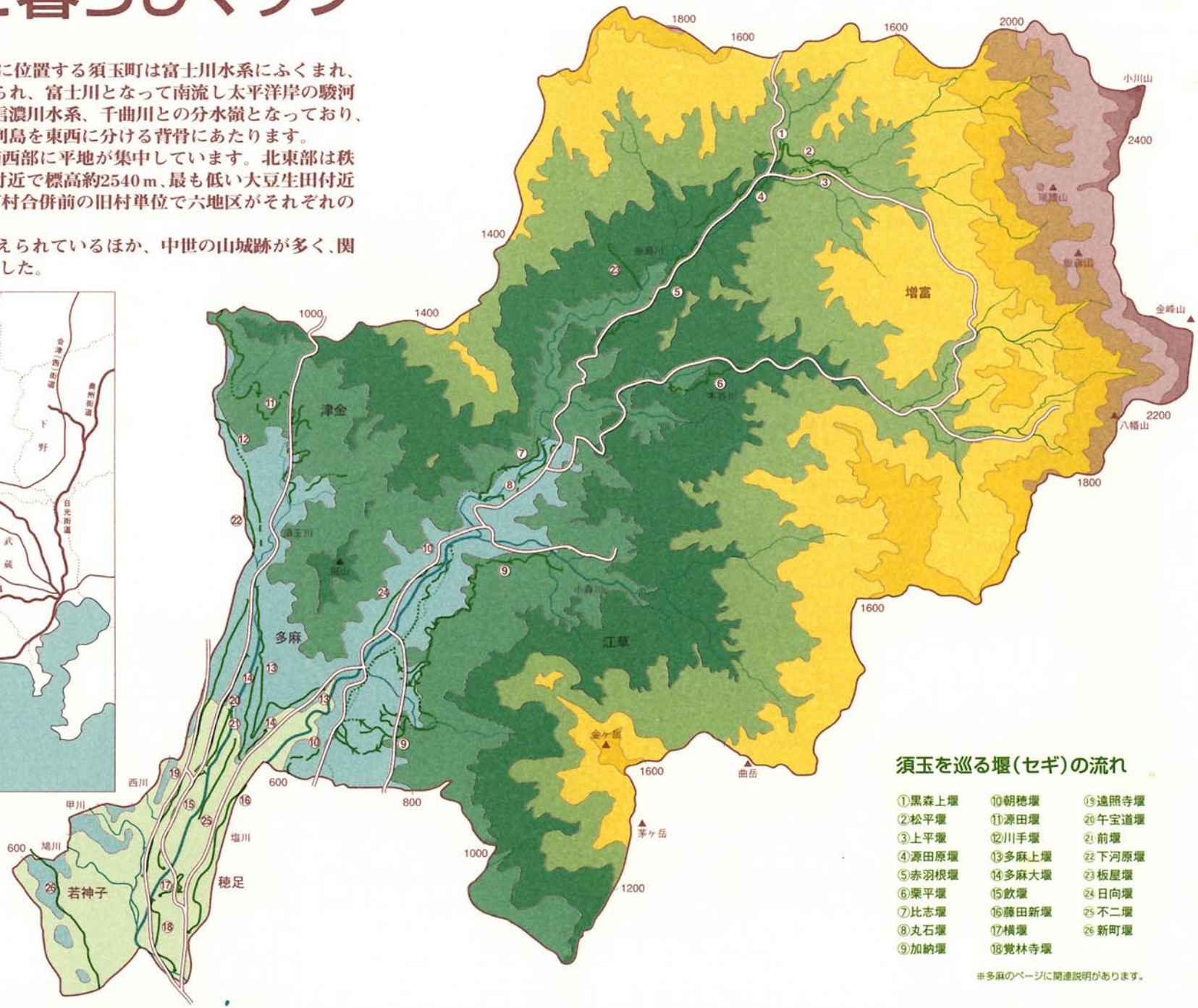
日本のほぼ中央にあたる山梨県。その北に位置する須玉町は富士川水系にふくまれ、須玉に降った雨や雪は須玉川や塩川に集められ、富士川となって南流し太平洋岸の駿河湾にそそいでいます。また、町の北西部は信濃川水系、千曲川との分水嶺となっており、それが県境になっています。分水嶺は日本列島を東西に分ける背骨にあたります。

面積約174ｋ㎡。全体の約85％が山地で南西部に平地が集中しています。北東部は秩父多摩国立公園にあたり、最も高い金峰山付近で標高約2540ｍ、最も低い大豆生田付近で標高約450ｍ、標高差2000ｍの地形に、町村合併前の旧村単位で六地区がそれぞれの特徴ある風土と歴史の中で暮しています。

武田信玄を生んだ甲斐源氏発祥の地と伝えられているほか、中世の山城跡が多く、関所跡が5ヵ所もあるなど須玉は交通の要地でした。



近世の甲斐（山梨）周辺の街道



須玉を巡る堰（セギ）の流れ

①黒森上堰	⑩朝穂堰	⑲遠照寺堰
②松平堰	⑪源田堰	⑳午宝道堰
③上平堰	⑫川手堰	㉑前堰
④源田原堰	⑬多麻上堰	㉒下河原堰
⑤赤羽根堰	⑭多麻大堰	㉓板屋堰
⑥栗平堰	⑮飲堰	㉔日向堰
⑦比志堰	⑯薄田新堰	㉕不二堰
⑧丸石堰	⑰横堰	㉖新町堰
⑨加納堰	⑱覚林寺堰	

※多麻のページに関連説明があります。

㊐ 役場・支所　〒 郵便局
㊗ 公民館　卍 寺院
文 小・中・高校　⛩ 神社
㊙ 保育所

増富〈ますとみ〉Masutomi の暮らしマップ

町の北東、最も広い面積をもつ地区で長野県に接する。秩父多摩国立公園にある瑞牆山が町のシンボルである。高冷地をいかした花豆の栽培が盛ん。小尾街道の黒森には関所がおかれ、秩父や金峰山への巡礼で賑わった。金峰山を源流とする本谷川と瑞牆山を源流とする釜瀬川が合流し塩川となる。増富温泉の上流には武田時代と伝わる金鉱跡がある。

正覚寺・岩屋堂(観音堂)
・13年毎のウマの祭の日に30人の方丈サン(お坊さん)による祈りがあげられた。

★花豆の産地
・夏にはオレンジ色の花をつけ秋にはピンクの大きな花豆が収穫される。

正覚寺
・毎朝5時ころ集まり"ベースボール"をした。
・お盆さんにはお寺の庭で3日3晩おどった。

神部神社
5月3日・春祭り・お神楽の奉納
・出店もでてヨーヨー、お面、オハジキその他いろいろのオモチャ屋がありナニよりの楽しみだった。

★馬のはなし
・増富の馬市は有名。毎年たくさんの人で賑わった。
・こっからもその頃は仔馬を100頭はだしてたからネ。馬の頭数は世帯数の1.5倍くらいあったです。
・雌馬を飼って毎年仔を生ませ、市に出していました。仔馬が生まれると近所の子供に集まってもらって、赤ちゃんが産まれたときのように産米(ウブメシ)をふるまってお祝いをしました。

御門(ミカド)・1月14、15日
・女獅子が各家をめぐり、子供たちは後をついてあるいた。
獅子に追いかけられたり噛みつかれ、怖かったり騒いだり、たのしかった。

・夜は男女の若いし(衆)の演芸会が[illegible]夜を明かして見にいった。

夏はなんといっても川で水あび。川魚やカジカをひしいだ＝石の下のを手づかみした。

小丸の淵
・泳げる人は水遊びとカジカとり、他の人は浅い所で水あび。たのしかった。

・ヨシャーの塩水　塩分のある炭酸の入ったシュワシュワしたお湯をここから汲んできてパンをつくった。フックラふくらんで美味しかった。

比志神社の春祭り・4月第4日曜
・毎年お神楽を奉納します。
・かつては稚児行列やお神輿で大にぎわいのお祭りでした。

比志神社の祇園さん・7月15日
・ここの獅子がこわくて、面白かった。

・神戸は雄獅子で御門と対になっている。

・トチの実はシブイので食べないが穴をあけて笛にして遊んだ。

樫山の山の神祭り 4月18日
・赤い袴をはいて祭典に参加、おまいりした。コウゴウ師(＝物売)などもきて、にぎやかだった。

★雨乞おどり
男が女装して踊る。
15才以上の男子が花笠をかぶり女物の長ジュバンをきてダラリの帯をしめ白足袋草履をはき扇子をもって踊る。
扇子の片面は"太陽"といって赤く塗り、一方は"月"といって銀色に塗る。干害の時の神事として部落外への口外を禁じられてあった。　－須玉町誌－

秋葉神社・11月18日
・火伏せの神。昔は1月18日。ヌルデの木を伐ってきて秋葉さんの庭に積み上げ、神主に拝んでいただいた後、火をつける。
盛大に火を焚いたあと、燠（オキ）になると無病息災をねがって、その上を村中の人が裸足でわたった。
火が好きな神さんなので祭りの日には花火をあげた。修験信仰の神、比志城趾にある。

富里分校
運動会、学芸会に村人も参加、寸劇をして協力してくれた。
春と秋の祭の時は地区のみんなで素人芝居。毎晩だれかの家に集まって練習。"父帰る"ではトウモロコシの毛でカツラをつくった。

信州峠
・昔は裏の峠を越えて長野県川上村までくだり、千曲川を利用したり、川上村御所平を経て清里にでた。病気のときも川上村の病院へいった。
・川上村からはソバマンジュウを売りにきた。"信州マンジュウ"といっていた。

・この辺は山菜、キノコなど山の恵みがいっぱい。

★ふしぎなこと
・狐石の水を飲むと願いがかなう
・マコジジイが遊びにくる所
・キツネによくばかされたのが東小尾から和田部落のあたり。
・キツネ火が夜、部落から部落への峠によくみえた。
・キツネ火が燃える。あとを見ずに足をうしろへけるとキツネにとりつかれない。

・今の須玉町の穂足まで行くには距離にして三里(12km)、3つの峠を越えなければならず、崖道も多くて、大変だった。

黒森の道祖神　1月15日
小正月の行事として"オヤナギ"が飾られます。子供が生まれる家のオヤナギさんはピンと立っている。オヤナギを眺めて当たることがおおい。

★冬、山でとって食べる物
・ここでは、大体お百姓をして農閑期に炭焼きをしていました。
・"増富といえば炭焼き"といわれたんですが、山猿といわれて憤慨したこともあります。
・マシラ(猿)のごとく…カッコいい！名誉ある呼び名ですネ。

東屋(アズマヤ)さん・部落の神さん
布バサミの形を歳の数だけ切りぬき"顔かけ"をする。

氷祭りは2月19日

・昔は雪が降るとウサギが出てきてね。罠をつくって捕りました。
・大根だとかその時ある野菜をいれてシャクシャク煮るんですね。
・あれは最高だったね。何匹かとった時は保存なんかしないで近所に分けてやったりもらったり、片付けるのは、わきゃないんです。
・それが、田舎の土地・集落の習わしというか、そういうものですね。
・銃はなくても罠をかけることは誰でもした。炭焼きの間に男衆がウサギを捕ってくる。
・高いところへ輪っこをかけておく。次の朝みて回るとウサギがかかっているんですヨ。
ウサギのあるく道は決まっているからね。
・イノシシとかクマとかシカとかはもうだいたいいますね。
・今は区域を決めているけど、昔はどこの山でも構わない。とり放題、食べ放題です。
・だけどカモシカだけは、昔から撃っちゃだめだったネ。だからふえすぎている。
・ウサギももものすごく繁殖しているわけです。今は獲る人も、食べる人もいないですよ。

江草〈えぐさ〉Egusa の暮らしマップ

塩川とその支流、小森川の流域にある。塩川左岸は茅ケ岳山麓にあたり城跡や、信州、秩父に通じる小尾街道(穂坂路)、甲州御嶽山(金峰山)への信仰の道があった。現在では、塩川右岸に長野県川上村へ抜ける県道がある。江戸時代には口留め番所(関所)が根古屋、馬場、岩下におかれるなど交通の要地である。

秋葉講　11月17日
・10日頃、静岡の秋葉神社本社へ火災除けのお札を代参人がいただきにいきます。今は車で日帰りです。
・17日夜、代参の人の家でお札を分けます。そのあとは皆で飲んだりたべたり。おみやげとして秋葉＝紅葉というので、モミジがデザインされたシャモジや布巾もあります。

雨乞い・7月中旬～下旬
・小森川の雨乞淵のそばに雨乞権現があり、嘉納堰(カノウセキ)関係の人たちがミノ笠姿で祈願した。
―江草村の昔話―

秋葉神社・火伏せの神様
・春秋の祭りは盛大で、春はお神楽を舞い、秋は餅投げをします。
神様が一番喜ぶのは神楽ですので春はお神楽の奉納をします。
・静岡の本社へ参拝するのと同じご利益がある。

★唐土神社の神楽殿であそんだこと
・ずっと前は素晴らしい神楽殿があったんですけど。
・この神楽殿では、雨が降った時や田植えの時の野良弁当をたべたんですよ。
・昔は今みたいに宿題もないし帰ったらすぐ遊びですから、ここではよく遊びましたよ。
・ここへ寄るのが楽しみでね。
・よく遊んだね。
・ハシゴがあるわけじゃなくて、棒を渡してそれによじ登って神楽殿で遊んだね。

小池平で雨乞い
・神社のそばに小さな池があって、日照りが続くとその池の中に石の地蔵さんをいれて雨乞いをすると雨が降ったそうです。その池の名をとって小池平と呼んだそうです。

★役(エン)の行者／鬼神をしたがえた修験道の祖
・藤皮をまとい、松の実を食とし、五色の雲にのってイナヅマより速く水上・空中を飛ぶ。富士山、全国の金峰山と縁が深く、町内にも数カ所に像があり、この町と縁浅からぬ人物。　7世紀末の人。

キツネの話
・お子安さんにいくといってでたきり、下駄の歯が擦り切れるほど歩き回っていたというおばあさんのことを聞いたことがあります。
・ほんまの昔、キツネっ火というのが、家の方で見ると明りが2つになったり3つになったり、7つになったりして見性寺の前にくると消える。
・宵の内、小雨の降る宵の口などにみた事ないかね。
・キツネッ火が遠くにみえる時は、キツネは近くにいるって、きいたことがあるね。

城山　獅子舞の来ない部落
・城山も下からみれば狭いようだけど、登ってみりゃあ広くていいところだよ。
・この獅子吼城が陥落した時に、獅子が一声吼えて孫女(マゴメ)の隧道の下に飛びこんで石となったといわれていて、獅子淵といいます。
・この部落では獅子舞が入ってくるとその年は大荒れになる、といい伝えられ、昔から獅子舞は入れないことになっています。

村の氏神様・1月1日・新年のお参り
・仁田平では、一の福をもらいに12時過ぎると1分でも早く他人より前にお宮参りします。
・その時は行きも帰りも人に会ってもしゃべらないの。黙って福をもって帰るんだから。
・おめでとうございますのあいさつもしない。
・岩下ではあいさつは普通にします。部落からお子安さんまで登っていきます。

願いごとをかなえる地蔵さん。

江草は飼草（エグサ）
・よい牧草があるので古くから馬の飼育地で有名。
・放し飼いのニワトリは夕方になるとウマ屋の天井につるした止まり木に舞い上がって眠る。木は鳥のフンが馬に落ちないように考えてとりつけた。

勝手子安神社・4月29日・春祭り
・子授けと安産の神さん。山の神さんでもあるという。
・山を越えて県の内外からお参りの人々がきて、それはにぎやかだったんですよ。
・私の生まれた所でしたが、家の雨戸を商人が貸してくれってきて、その上に商品を並べて売ってましたよ。
・出店もたくさん。お小使いをもらってアメ玉やくじ引きをして、、、
私たちの頃は美空ひばりちゃんが人気で、大きい写真が当たるとうれしくってね。
・自慢気に人にみせるんですよ。

曲岳（1642）

根古屋神社の大ケヤキ　(→歳時記5月3日)
・天然記念物に指定された巨木2本がある。
・私達が子供の頃はこのケヤキのウロの中へ10人位らくらく入ることができたんです。
・そんなある日、子供が中に入りこんで火をつけちゃったんです。
・消防もでたりしたんですが、三日三晩燃えたんですよ。

▲茅ヶ岳（1764）

★芸能・旅芸人・行商
・獅子舞は外からではなく地元の若い衆がやります。
・根古屋神社でもお神楽は行われてます。やりたくても人がいなくてね。
・旅芸人はお祭りにくるんでなくて、瓢々と決まった日があるわけでなくやってきます。
・ハイのハイのハイといって三河漫才なんかもきました。
・昔のこと、子供の頃です。
・アメ屋もきました。頭の上に丸い輪をのせ、その上に大きなタライをのせて。
・旗や風車を立てて唄を歌いながら。
・旗なんか、もらいました。

大きな堤(ツツミ=池)
今はゴルフ場になってしまいましたが、昔は冬はスケートをしたり、夏は水遊びをしたりと子供たちの遊び場でした。

★こわかったこと
・物もらいの住む岩穴。悪い事をすると岩穴へ連れていくといわれた。

山の生活　Mountain life

深い渓谷が黄色く紅く染まる秋の増富をいくとき、太古の昔から変わらない自然と、"山の神々の気配"が現代の私たちをつつみます。トチ、イヌブナなどが自生するこのゆたかな自然の中で山菜や川魚とりとその保存、けもの狩り、炭焼き、仔馬の生産など、須玉町の他の集落ではあまり見られない山の生活がここにはありました。

しかし、自給自足に近いものとはちょっとちがいます。それは自然との共存の中から炭や仔馬などの換金商品を生み、それで主食の米などを買っていた点です。またお寺や神社が多く、その神事や祭りも盛大で馬市もにぎわい、人・物・情報の交流もさかんでした。一見山奥ですが"開かれた山"だったのです。

このように、昔からの山の生活と貨幣経済が無理なく共存できる独自のくらしがここには作り上げられていたようです。これは自然との共存をせまられる現在の私たちが一番知りたいくらしのスタイルかもしれません。

津金〈つがね〉Tsugane の暮らしマップ

八ケ岳を源流とする須玉川の左岸の高台にある。リンゴ、スイカなどの果物が名物でとても甘くおいしい。縄文の遺跡、中世の館や城跡があり南アルプスや八ケ岳の眺望も素晴らしい。長野県佐久地方との結びつきも強く佐久往還が通り、江戸時代には海岸寺のお祭りに信州より手形なしで往来できて賑わった。

★おバクロウ（馬喰う=馬の仲買人）さん
・一家に一頭は馬がいました。
・おバクロウさんが馬をつれて部落に回ってきます。
・馬を買うときは近所の人に集まってもらって品定めをして決めました。

・夏は源太城の広くなっているところを止めたり、川手の川へ行って水あび、魚釣りもした。中田の川にはウナギもいた。

山の神大明神・5月17日・祭礼奉唱
日照りのとき雨乞いをする。ご神体を池に沈めて降雨を祈り、願いがかなえばもとに奉納し、感謝の祭りをおこなう。

★ふしぎなこと
・麦蒔きがおわったころの雨の夕方。うす暗くなったころ、山すそに点々とキツネッ火がみえたものだ。
・キツネにばかされ田ノ尻橋でグルグル回った。

・相ノ原や須玉川沿いではクルミ、セリ、クレソン、フキなどたくさん採れる。

★夏の一日
・小さい頃は、川で午後は3時まで泳いで、それから暗くなるまで釣りをした。
・そうそう、晩ご飯のおかずを釣るんですよ。魚の目を穂のある丈の長い草に刺してもって帰ってくるんです。
・夏のおやつは、外で遊びながら採ったキイチゴや赤くてほんのり甘いクワグミ。口のまわりが紫色になり、お化けの口のようになっておかしかった。

お盆のころ
・昔の盆踊りで四つ節や二つ節っていうのがあって、みんな盛りあがってすごい踊りでした。詞を作って節にあわせて歌って、その上手さで一等はネコ(竹ザル)などの賞品がでました。
・子供たちは相撲とりをした。挽きヌカ(木クズ)をもらって土の上にまき、土俵をつくって相撲をした。
・盆踊りやお祭りが"いつ・どこで"あるかはわかっていて、遠くでも踊りにいく。そこでお嫁さんを探してきた人もいる。

津島神社・7月14日・祇園の宵祭り
・昔はちょうちんを、氏神さんの境内から山の中腹の石宮までつるし、その光が遠くからも見えて、それはいいものだった。
花火をあげてにぎやかだった。

旧津金小・中学校
・明治の藤村式校舎は歴史資料館として復活。

熊野神社
下原、和田合同で春祭りを4月29日
秋祭りを10月10日におこないます。

道祖神まつり・正月14日、
お神輿(ミコシ)がでて楽しい。お嫁さんがきた家をねりあるき。あとを子供がついて歩いた。

藤岡神社・5月3日・春祭り
和田、下原、御所(ゴショ)の三部落が交替でノボリをたて、お神楽の奉納をします。
藤岡山上で奏される笛太鼓は、下津金じゅうに響き渡ります。学校は半日になり子供は楽しみなお祭りでした。

海岸寺・4月29日・お祭り
・昔は海岸寺のお祭りっていえば、学校が半日になってね。
・旅役者とか見世物とか、露店が出てにぎやかでした。
・私の子供のころはね、お祭りに浪花節をする専門の人がきましたよ。
・津金でも10月10日にいろいろきましたよ。国定忠次みたいなものだったかね。
"おくんち(旧9月9日)"っていったね。
・映画をしたり、浪花節をやったりしました。
・三益愛子の"母もの"ですね。
・覚えているのは、四谷怪談がこわくて少しも見ないでお金払って帰ってきたんです。

諏訪神社

御所	4月29日	お神楽奉納	子供みこし
桑原	5月3日	お神楽奉納	
大和	5月4日	お神楽奉納	

バスは昭和28年にここまで走った。子供たちは学校を休んで見にいった。

馬五輪さん・3月21日
昔の生活に欠かせない馬の供養塔。お団子や馬の好きな野菜を供える。

馬頭観世音祭り
和田では、毎年4月吉日にいたします。お寺の方丈さま(お坊さん)に拝んでいただいて、馬五輪さんのお札を家々に配ります。　一津金のむかし話一

和田の秋葉さん・秋葉神社・火伏せの神様。
・春と秋の祭典では消防団員が秋葉さんにお参りする。
・昔は遠州(静岡)秋葉神社本社まで数日がかりでお詣りした。部落から数人ずつ交代でお参りする代参人が、甲府から富士川沿いに舟で河内路を下って東海道にでて、帰りは信州路をとってかえってきた。　一津金のむかし話一

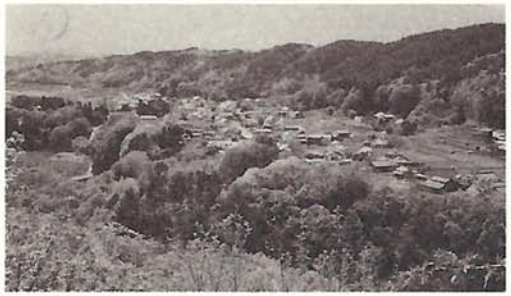
天狗神社
火伏せの神様。風水害のないよう祈願。
・天狗はいたんですか。
・天狗神社のおカイコ神さんのなかへハチが巣をつくったのを、クマがきて倒してたべちゃって、こわかったですよ。
天狗どころじゃなかった。

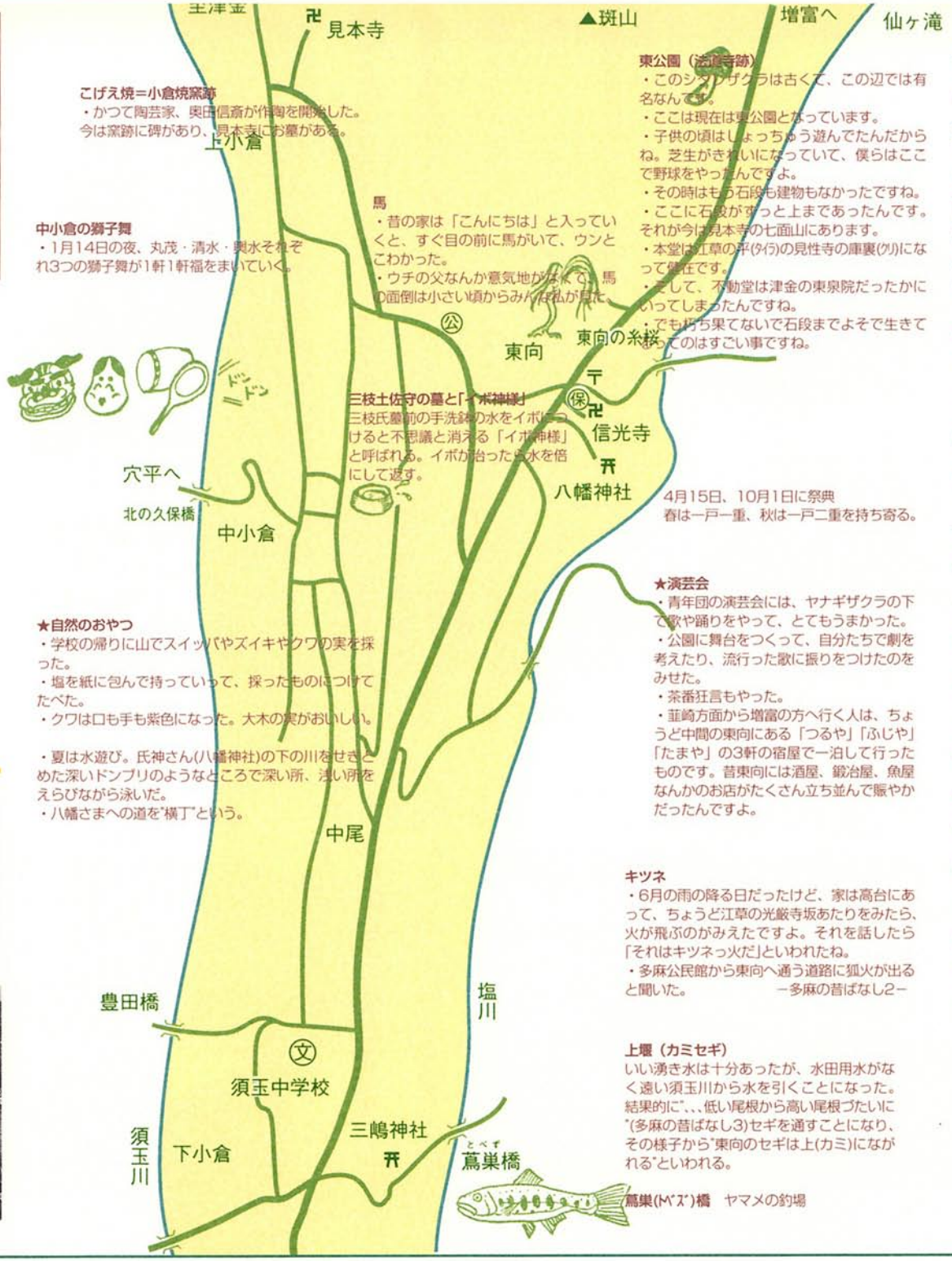
★冬の一日
・古堤でゲタに刃をつけてゲタ刃スケートをした。
・タビの上にこれをはき、麻ナワでしばって足に固定。
・ツルシンボ(干し柿)とキッポシ(サツマイモの切り干し)をもって、よくいった。
・冬は裏の山でスキーやソリ遊びをした。
・冬の夜はこたつでカルタとり。おやつはおかきなど。

堰（セギ） "Segi" — The canal systems have benefited the area
ブナ林=落葉広葉樹、あるいは夏緑樹の森は貯水槽といわれ、豊かな水を供給します。須玉町の場合も湧水や井戸水としては良い水は十分あります。しかし水田をはじめるには傾斜のきつい同町の地形では、深い渓谷を流れる急流から適宜水を引くことができず、セギという人工の小川を急流から引いて、これを共同で使いながら水田を広げていきました。なかでも嘉納セギはいくつかの峯や谷を越えて水を引きまわし、延長15kmに及んでいます。
水の利用にはどこにでもおこる水利権やセギ管理の取り決めの文書、維持費明細、集落間のもめごとの記録などが沢山残されていますが、この地における水、そしてセギの重要性を痛感させられます。水車を回すには別に車セギを設け、石臼、唐臼、ワラ叩きの杵を動かしました。

多麻〈たま〉Tama の暮らしマップ

マツタケの産地として有名な斑山のふもと。須玉川と塩川に挟まれた地区。斑山から南南西の穂足にむかって中央に尾根があり、その中腹には金山と伝えられる穴や、ふもとには城跡がある。山に燃料とする松が多くあった為か、明治大正にかけて小倉焼の窯がきずかれていたほか、最近まで瓦を生産していた。





こげえ焼＝小倉焼窯跡
・かつて陶芸家、奥田信斎が作陶を開始した。
今は窯跡に碑があり、見本寺にお墓がある。

中小倉の獅子舞
・1月14日の夜、丸茂・清水・興水それぞれ3つの獅子舞が1軒1軒福をまいていく。

馬
・昔の家は「こんにちは」と入っていくと、すぐ目の前に馬がいて、ウンとこわかった。
・ウチの父なんか意気地がなくて、馬の面倒は小さい頃からみんな私が見た。

三枝土佐守の墓と「イボ神様」
三枝氏墓前の手洗鉢の水をイボにつけると不思議と消える「イボ神様」と呼ばれる。イボが治ったら水を倍にして返す。

東公園（法蓮寺跡）
・このシダレザクラは古くて、この辺では有名なんです。
・ここは現在は東公園となっています。
・子供の頃はしょっちゅう遊んでたんだからね。芝生がきれいになっていて、僕らはここで野球をやったんですよ。
・その時はもう石段も建物もなかったですね。
・ここに石段がずっと上まであったんです。それが今は見本寺の七面山にあります。
・本堂は江草の平(タイラ)の見性寺の庫裏(クリ)になって現在です。
・そして、不動堂は津金の東泉院だったかにいってしまったんですね。
・でも朽ち果てないで石段までよそで生きてこのはすごい事ですね。

4月15日、10月1日に祭典
春は一戸一重、秋は一戸二重を持ち寄る。

★自然のおやつ
・学校の帰りに山でスイッパやズイキやクワの実を採った。
・塩を紙に包んで持っていって、採ったものにつけてたべた。
・クワは口も手も紫色になった。大木の実がおいしい。

・夏は水遊び。氏神さん(八幡神社)の下の川をせきとめた深いドンブリのようなところで深い所、浅い所をえらびながら泳いだ。
・八幡さまへの道を"横丁"という。

★演芸会
・青年団の演芸会には、ヤナギザクラの下で歌や踊りをやって、とてもうまかった。
・公園に舞台をつくって、自分たちで劇を考えたり、流行った歌に振りをつけたのをみせた。
・茶番狂言もやった。
・韮崎方面から増富の方へ行く人は、ちょうど中間の東向にある「つるや」「ふじや」「たまや」の3軒の宿屋で一泊して行ったものです。昔東向には酒屋、鍛冶屋、魚屋なんかのお店がたくさん立ち並んで賑やかだったんですよ。

キツネ
・6月の雨の降る日だったけど、家は高台にあって、ちょうど江草の光厳寺坂あたりをみたら、火が飛ぶのがみえたですよ。それを話したら「それはキツネっ火だ」といわれたね。
・多麻公民館から東向へ通う道路に狐火が出ると聞いた。　　－多麻の昔ばなし2－

上堰（カミセギ）
いい湧き水は十分あったが、水田用水がなく遠い須玉川から水を引くことになった。結果的に"、、、低い尾根から高い尾根づたいに"(多麻の昔ばなし3)セギを通すことになり、その様子から"東向のセギは上(カミ)にながれる"といわれる。

蔦巣(トベズ)橋　ヤマメの釣場

仙ヶ滝
・滝の下ではヤマメやウナギがよくとれた。滝が高くて魚がのぼれず、滝つぼにたまるみたい。

斑(マンダ)リ山の金山の話
・近くの沢には金がでたともいいますね。
子供がよく遊びにいっていた。
マンドリ山に金鉱跡があったといいます。いつの頃金がでたのかというのも難しいんですが、武田の頃はもう掘り尽くしていて、それよりずっと前です。金鉱跡はあるんですが、もとになる金山神社というのが、この辺にはない。古い出来事なので規模が大きいわりに伝承がないのです。

マツタケとり
"山の松たけ何見て開く、やぶのあけびを見て開く"
－多麻の昔ばなし2－
・東向ではたくさんマツタケがとれてね。
・しっかりしたいいマツタケとして有名なんですよ。
・あるとき火事で山が燃えたり、水道を引くために山の木を売ったりして、今は昔ほど採れなくなっている。

★信光寺がもえた時
・火の玉が飛んだ方向に信光寺があり、境内の杉の倍くらい高く火の手が上がった。

★親の手づくり
・オケをしめていた竹の輪は、こわれると輪回しにして遊んだ。
・冬には親に竹を切ってもらって、小さなソリにして滑った。
・あれは5つか6つの時と思うが、フルイに紙を貼って太鼓をつくってもらったことがある。
・大人が石や刈った草を積んで、川の水をせき止めてくれて、そこで泳いだ。

★昔の暮らし
・当時は風呂が外にあって、雨が降ると唐傘(カラカサ)をさして入ったりしてね。
・だけど、東向(ヒガシムキ)は自動車も通っていていい所だといわれていたね。
・冬もあったかいし陽あたりはいいし。
・ここらへんじゃ一番いいところだ。
・今でも奥のし(須玉の奥の方に住んでいる人)は、東向まで出てくれば、まわりも広くなってホッとするじゃあないけ。
・明治時代"東向は日本で一番賑やかな所"って思っていた子供がいたってネ。
－多麻の昔ばなし2－

若神子〈わかみこ〉Wakamiko の暮らしマップ

須玉川の右岸にあって南北に長い。南西は八ケ岳東南麓になり釜無川左岸の崖で終わる。特に役場のある附近は須玉川の支流西川、甲川、鳩川がそそぎ、古来より水利や交通の要地で城跡が三ヵ所もある。甲斐源氏発祥の地と伝えられるほか、武田信玄のころは、陣所があり、江戸時代には宿駅として栄えた。

キツネ

・隣町の蔵原の方へいく道の曲がり角へきてチョイと振りかえると見知らぬ小僧がついてくる。
しばらくいって、又、曲がり角になったから振り向くとまたついてくる。
どこの小僧かといぶかしく思いながら次の曲がり角で振りかえったら、今までついてきた小僧の姿がみえない。
キツネの仕業かどうか今もわからん。

遠照寺のオハツキイチョウ

・このイチョウは、1991年に発見されたのですが、葉の上に2つの実がつく珍しいものです。

鶴亀の松

・子供の頃、天然記念物だなんて知らないから、横振りの登るのにちょうどいい具合の枝があって、大勢でよく遊んだものでした。
・ほんとだよね。学校から帰ってくると必ずお寺にきて遊んだですよ。

須賀神社

・秋祭りにはお神輿や神馬がでて、交通整理がでるほど、にぎやかだった。
・そのあと子供の遊び場だったが、今は地箱だけ残っている。
・祭神は三輪神社に遷座されている。

★ケンカ遊び

・昔は川又とその上の箕輪新町(ミノワシンマチ)のし(衆)が、よくケンカをして石を上から投げられたり、転がしたりして、結構危ないケンカだったね。
・中村のし(衆)も、その上の箕輪新田のし(衆)とケンカをして、いつも負けて帰ってくる。
・中村は下だからいつも石を投げられちゃあ負けて、田んぼの土手のかげに隠れてさわぐんだけど、そうするとヤマビコが返ってくるってわけ。その響きをすごく楽しく聞きながらネ。

★二日市場のこと

・二日市場には馬市、農工具、日用品の市が立ち、逸見(ヘミ)筋一帯、北山筋、武川筋から人馬があつまり、賑わったものだ。
・二日市場の道祖神はアオ、中村はアカの鬼面。阿(ア)・吽(ウン)の対になっている。

みそなめ地蔵

・身体の痛いところと同じ所へみそをぬると治るといわれている。

★楽しかったこと

・クワの葉採りしたあと友達との水遊び。
・松ボックリをつなげてカゴをつくり、花を摘んでいれた。
・道々レンゲを摘んで、歩きながら首飾りをつくった。
・目の神様のニッチョサン(日朝堂)の夏祭りには店がでて、北巨摩の若い衆が集まって踊ったり歌ったりでにぎやかでした。
・多麻の小倉(コゴ゛I)の方のし(衆)ともケンカをして「小倉の小僧だちゃ、ケンカにうされ、もし負けたらケツ振って逃げろ」っていいながらケンカしたもんです。
・大人だってケンカしたじゃないですか、水の問題で。水の取り入れ口が万年橋のところにあって多麻の東向にいってて、こっちと水ゲンカをしたんですよ。

★おかめえ場で水泳

・川にもいったネ。ニッチョサン(日朝堂)の前を東の方に下りていった河原を"おかめえ場"といって、よく泳ぎにいったですよ。
ちょっと広くなっていて、泳ぎやすくてね。
川を越えて小倉(コゴ゛I)のはばへもいきました。
・下りていくと水車が2カ所あって、そこで米をつくんです。
・昔は米ドロボウがいてよく盗まれたんですよ。

若神子宿部落

・私たち下宿(シモジ゛ュク)だって、穂足(ホタリ)の大蔵新田とケンカしたんです。ケンカはつきもんですよ。
・なんしろ男も女もないよ。ケンカしたり、へぼ(ハチ)を追い歩いたり、坂には落葉を敷きつめて箱スキーしたり、楽しかったね。

★かつての演芸会

・明治時代、女相撲など催して、その都度多数の人々の人気を若神子に集めた。
その後、軽芸の小屋掛けなど数回、昭和初年に活動写真館の栄館など設立して、若神子の宿は大盛況であった。
又、浄瑠璃も盛んで田舎芝居も仲々よくやって他村に招かれていった。　　ー若神子風土記ー

・地元の若いし(衆)がやった素人芝居は踊りもあれば唄も歌うというものでした。
・"阿波の鳴戸"の弾きがたりや、浄瑠璃の"太閤記"や"弁慶"を6月から2ヵ月間練習して演じました。
・畑に小屋掛けして、桟席をつくって、そこへ酒、重箱をもちこんで客は飲み食いする。
・舞台にはおひねりが飛びかったものです。
・田んぼへ小屋掛けして芝居から軽わざまでやりました。

★飲み堰（のみせんぎ）

・のみせんぎ（飲み堰）は、集落の中を流れる唯一の上水で、本当にきれいな水だったね。
・そうだよ。堰の縁にはお釜がふせてあったり、おこげをひやかしている鍋があったり。白菜漬けの頃はそりゃあ賑やかですね。
・汚れたものを流すなんて非常識なことはひとつもなかったです。

若神子新町の神明社

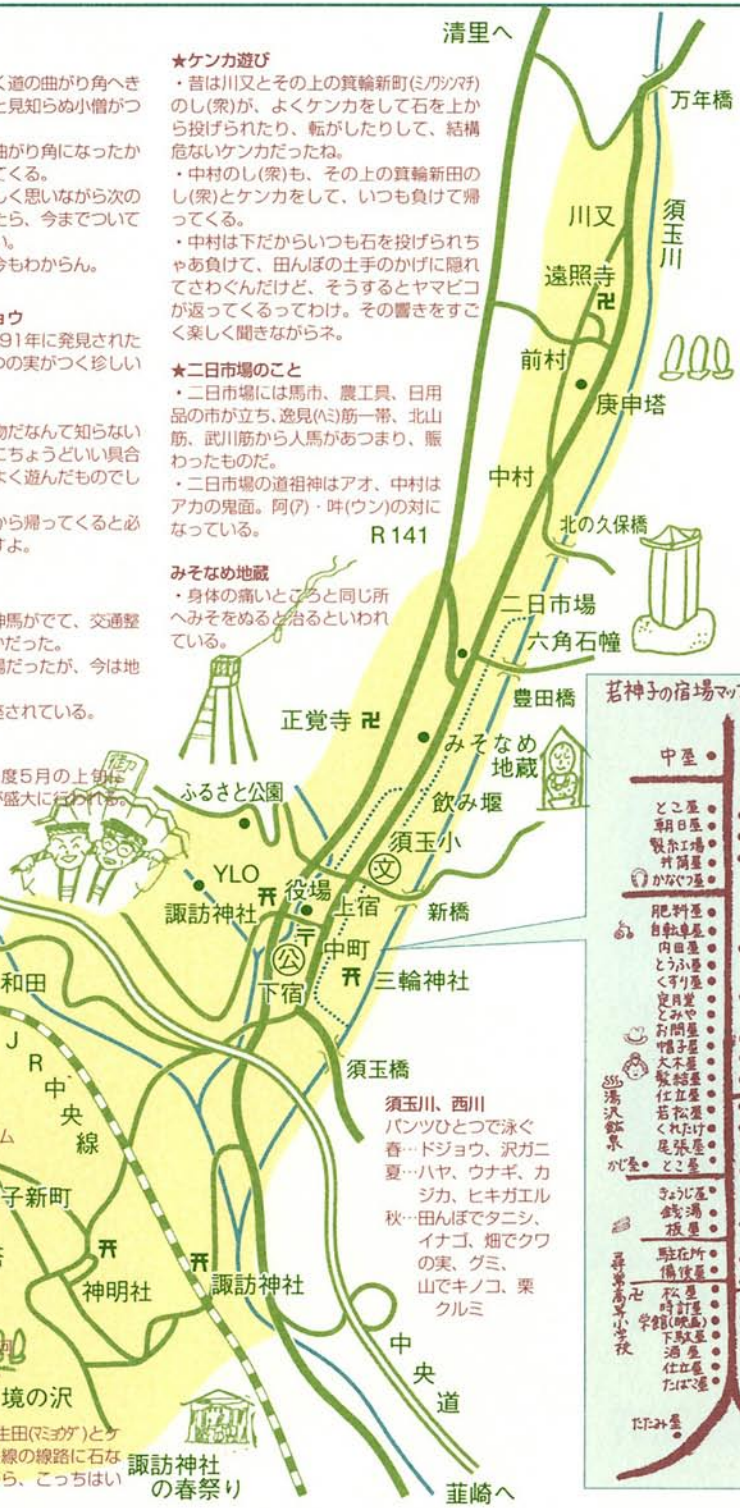
・神明社では、春祭りに「浦安の舞」が奉納されていました。中学生の女の子達が、練習をしてきれいに舞っていたんですが、最近は人手不足で残念ながら奉納されていないんですよ。

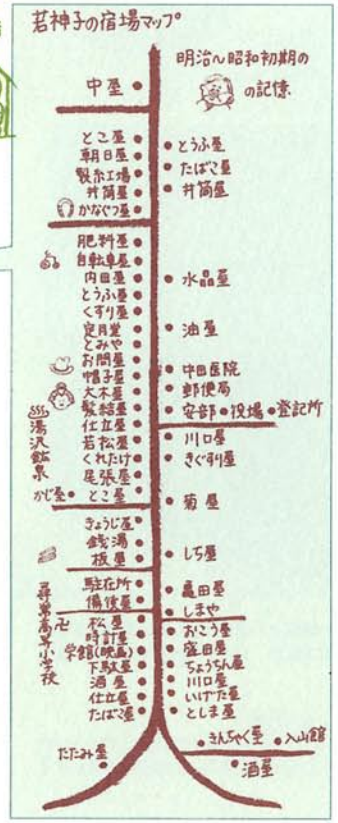
諏訪神社・境の沢　4月14日　春祭り

・ここでお祭りをしたあと、電気がないので暗い中でお酒をのむんです。
・暗いっていうのがいいんですよ。
・ここは境の沢のはずれですよね。
・ええ、だいたい氏神様は村のはずれにあるものですよ。
・この境の沢は須玉の中で一番酒をのむ部落ですよ。
・いつでも何でものむってことです。
・行事があったら必ずのむ。
・その時に、一戸一重ということで、それぞれの家でメニューを考えてもち寄ってくるわけです。

諏訪神社

7年毎に一度5月の上旬に「御柱祭」が盛大に行われる。





須玉川、西川

パンツひとつで泳ぐ
春…ドジョウ、沢ガニ
夏…ハヤ、ウナギ、カジカ、ヒキガエル
秋…田んぼでタニシ、イナゴ、畑でクワの実、グミ、山でキノコ、栗クルミ

・夏にはおいしいソルダムがいっぱい。

境の沢(サカイノサワ)

・境の沢の入り口、温泉河原で春先にフキを採った。

・この辺では穂足の大豆生田(マミョウゲ)とケンカしたんですよ。中央線の線路に石なんかなんぼでもあるだから、こっちはいつも勝ってたね。

諏訪神社の春祭り

礫飛（つぶて）一子供の石合戦について
"Tsubute" — Children fought stone battles

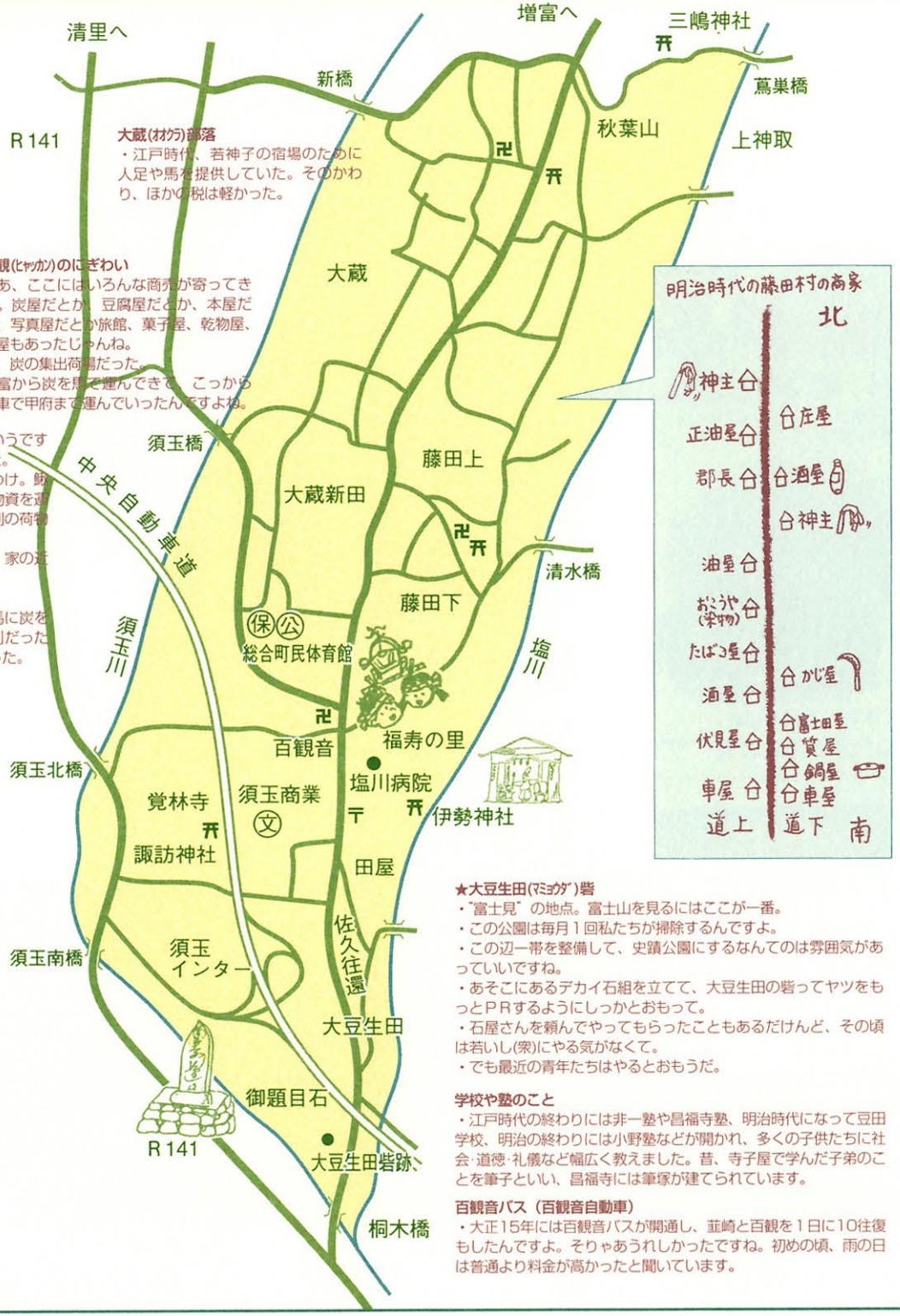
子供のケンカには石合戦がつきものでした。舞台は河原、比べて見れば分かりますが、急峻な河原の石ころは角ばっていて小石とは言え立派な武器です。野戦で暗躍したという武田の石投げ隊も、ほんとうかもしれません。甲州には丸石道祖神、大石の御神体、積石塚など石にまつわる奇妙な遺物や風習が今なお身近にあります。子供の石合戦も、元々は端午の節句を中心に行われた邪気払いの菖蒲切りが起源らしい。菖蒲の葉で作った刃や鉢巻を身に付けて戦い石を投げ合う年月行事。昔はその勝ち負けで吉凶を占う信仰的な子供の風習であったといいます。これがいつしか夏の河原の水遊びと重なり、集落ごとの子供軍団の勢力示威の場となったのでしょう。日常の鬱屈した戦闘心の発散の場であると同時に、そこには様々な大人社会の利害対立や外者への侮蔑意識も反映されていたのかもしれません。懐かしい石投げの遊びは、遠い太古の時空から投げられた石なのでしょう。

街道・宿場のはなし　Lodging spots along the old main road

甲州街道韮崎から穂足、若神子、津金を経て、中仙道岩村田へいたる佐久往還。甲府から敷島、三之蔵を通り、江草、増富を経て信州峠から川上村へいたる古道・穂坂路（小尾街道）など、古来信州との結びつきが強い位置にありました。武田氏時代の軍道や国境の番所跡が史跡として見られますが、近代的な伝馬制（宿駅ごとに一定の逓送用の駄馬を整える制度）も江戸時代には、ほぼ完備されてきました。かつての街道の往来を支えた宿場は懐かしい屋並として残され、穂足や若神子など、今なおローカルな商店街として賑わいを見せているところもあります。秩父への巡礼の旅も、はるか秋葉山や伊勢まいりの旅も、この道から始まりました。日々の暮らしの中で人々は講を組み、何年かに一度、代表者を代参の旅へ向かわせました。同じ道を、農閑期の祭りを賑わせる芸人や文人墨客、薬売りや様々な商人、渡世人（大工、石工などの職人）が行き交いました。暮らしの経済を支える物流の道であったと同時に、人々の好奇心をかりたて時代の息吹を伝える情報の道でもありました。

穂足 〈ほたり〉Hotari の暮らしマップ

須玉川と塩川に挟まれた地区。川の合流地点が標高約450mと町内で最も低い。甲府・韮崎方面からは、南の玄関口にあたり、百観音で分岐して若神子を通り清里から佐久へぬける道、塩川沿いに増富から川上村、秩父へぬける道にわかれる。遺跡は弥生時代から古墳時代の集落が多い。中世の城や館もあった。



大蔵(オオクラ)部落
・江戸時代、若神子の宿場のために人足や馬を提供していた。そのかわり、ほかの税は軽かった。

★百観(ヒャッカン)のにぎわい
・まあ、ここにはいろんな商売が寄ってきてね。炭屋だとか、豆腐屋だとか、本屋だとか、写真屋だとか旅館、菓子屋、乾物屋、ゲタ屋もあったじゃんね。
・昔、炭の集出荷場だった。
・増富から炭を馬で運んできて、こっから荷馬車で甲府まで運んでいったんですよね。

・それから当時は車屋さんっていうですか、運送士が15、16人いました。
・これはほんと都合いいちゅうわけ。鰍沢(カジカザワ)までいったり、生活物資を運んだり、荷物もっていっちゃあ別の荷物もって帰るっちゅう。
・朝早く出て夜遅く帰ってきて、家の近くでも2、3軒あったもんね。

・増富から三里(12km)の道を馬に炭を積んでくると炭屋の隣が「勉強屋」だったので、そこでいろいろ買って帰った。

★大豆生田(マミョウゲ)砦
・"富士見"の地点。富士山を見るにはここが一番。
・この公園は毎月1回私たちが掃除するんですよ。
・この辺一帯を整備して、史蹟公園にするなんてのは雰囲気があっていいですね。
・あそこにあるデカイ石組を立てて、大豆生田の砦ってヤツをもっとPRするようにしっかとおもって。
・石屋さんを頼んでやってもらったこともあるだけんど、その頃は若いし(衆)にやる気がなくて。
・でも最近の青年たちはやるとおもうだ。

学校や塾のこと
・江戸時代の終わりには非一塾や昌福寺塾、明治時代になって豆田学校、明治の終わりには小野塾などが開かれ、多くの子供たちに社会·道徳·礼儀など幅広く教えました。昔、寺子屋で学んだ子弟のことを筆子といい、昌福寺には筆塚が建てられています。

百観音バス（百観音自動車）
・大正15年には百観音バスが開通し、韮崎と百観を1日に10往復もしたんですよ。そりゃあうれしかったですね。初めの頃、雨の日は普通より料金が高かったと聞いています。

★馬
・役場には馬の名前をのせた馬籍簿があった。
・穂足300世帯に200頭の馬がいた。

藤田(トウダ)部落
・徳川時代から今日までの190年位、人口の変化がない静かなたたずまい。
内藤講、桜井講、お荒神さんなど、講が盛ん。

★百観音　8月9、10日　夜観音(ヨガンノン)祭り
・観音様は浅草の浅草寺から来たんですよ。
・このお祭りは大正の末期に盛大になっていったです。
・一番最初は芸者の手踊りっちゅうのをやったんです。
・相撲もしましたよ。
・トラックは街灯ごとにとまって、その下で踊るの、ライトで明るいからネ。
・賑やかだったですよ。
・自動車が動けなくて、川に落っこちる人もいて。
・トラックの上で踊るんですよね。
・お祭りは始まりから70年ちゅうもんだね。
・その前は観音講が毎月あったです。
・百観はとにかく商人を主体としたお祭りで、お観音の思い出といえば勉強屋でスイカ、かき氷を買って、カイセイ堂できんつば、お饅頭を買って、桜井で…っていうふうに、買ったものを家に帰って食べるっていうのが楽しみでね。

伊勢神社
・4月は春の神楽があり、10月のお祭りには浪花節と、芸人を呼んで演芸会をした。
若い頃、甲府の穴切にあった演芸の斡旋(アッセン)所に興行の依頼にいったことがある。

大蔵の秋葉山
・この集落が大蔵ですが、秋葉大明神を火伏せの神として祀っています。
・ここはマンドリ(斑)山の山すそが半島状に伸びてきた高台です。夏の昼下がり、ここの傘松の下の風はいいものです。眺めもなかなかだし。
毎年、静岡の秋葉さんの神様まで代表がお参りに行っているわけです。

桐ノ木橋
・塩川の中洲には桐、アカシアがたくさんあった。橋のたもとに桐の大木があったことから桐の木橋と名付けられた。

★冬の仕事
・冬の農閑期、茅ケ岳へ馬をひき、女はショイコを背おって列をつくって薪取りに行った。

★夏の仕事
・夏の馬に与える秣（マグサ）や肥料づくりのため、浅尾原まで草刈りに行った。
・共有地は300町歩あり、他に入会地10ケ村の入会地があった。何百年も前から区権の争いが続いた。

■参考資料リスト

〈須玉町関係参考文献〉

●須玉町誌●わたしたちの須玉町（須玉町教育委員会）●ふるさとの今昔見聞集（須玉町食文化を考える会　若神子支部●穂足地区農村のくらし　●津金むかし話●上津金の民俗―北巨摩郡須玉町―（山梨県）●江草の昔話●多麻の昔ばなし第1集、第2集、第3集●若神子風土記　第1集、第2集●若神子村誌●穂足の歴史とくらし●芦川村誌●石和町誌●川上村誌●県境を越えて　第2集（長野県史刊行会民俗編編纂委員会）●甲斐の道づくり・富士川の治水　歴史資料集●山梨県の民話と伝説（土橋里木）〈有峰書店〉●甲斐の山旅・甲州百山（蜂谷緑・小俣光雄・山村正光）〈実業之日本社〉●山梨県の歴史（磯貝正義・飯田文弥）〈山川出版社〉●山梨・本のある風景（植松光宏／山梨ふるさと文庫）〈星雲社〉●わたしたちの甲府市（甲府市社会科研究会）●食べものの考古学・山梨考古　第49号（山梨県考古学協会）●山梨県行政資料目録（県民情報センター）●県政のあゆみ●あるくみるきく No.236　甲武国境の山村・西原に「食」を訪ねて〈近畿日本ツーリスト〉●廣重甲州道中記・甲斐志料集成より（安藤廣重）〈歴史図書社〉●甲斐叢記・甲斐志料集成より（大森快庵）〈歴史図書社〉●つぶて・ものと人間の文化史44（中沢厚）〈法政大学出版局〉●石にやどるもの・甲斐の石神と石仏（中沢厚）〈平凡社〉●山梨の民俗～祭りと芸能～（上野晴朗）〈光風社書店〉●神々の風景～信仰環境論の試み～（野本寛一）〈白水社〉●八ヶ岳の三万年（小泉袈裟勝）〈法政大学出版局〉●八ヶ岳縄文世界再現（田枝幹宏）〈新潮社〉山梨県歴史の道調査報告書第1集／穂坂路・第5集／佐久往還〈山梨県教育委員会〉●聞き書き・山梨の食事〈農文協〉○山梨の民家（坂本高雄）

〈参考図版資料〉

○朝日百科　世界の食べもの〈朝日新聞社〉写真Ⓔ宇津木章Ⓕ工藤正志Ⓗ堤勝雄○世界の料理〈タイムライフブックス〉写真ⓀⓁⓂⓃⓄⓅⓆⓇⓈⓉ○クリスマス小事典〈社会思想社〉写真Ⓘ遠藤紀勝●宮城ブナ帯食ごよみ（〈食〉研究工房、タスデザイン室、ペーパースタジオ）○街道紀行（毎日新聞社編）〈毎日新聞社〉○ヨーロッパの祭りと伝承（植田重雄）〈早稲田大学出版部〉○シリーズ世界のお祭り5・収穫と感謝のお祭り（ﾗﾙﾌ・ｳｨﾄﾛｯｸ／井本英一訳）〈同朋舎出版〉写真Ⓥ○MODERN THAI COOKING（M.L.Taw Kritakara. M.R.Pimsai Amranand）〈DUANG KAMOL〉○新編　山と渓谷（田部重治著／近藤信行編）〈岩波文庫〉イラストⒶ茨木猪之吉○季刊民族学72（国立民族学博物館　監修）〈(財) 千里文化財団〉写真Ⓞ川野明正○雑穀のきた道　ユーラシア民族植物誌から（阪本寧男）〈NHKブックス〉○フィガロジャポンNo.68〈TBSブリタニカ〉写真Ⓤ○祭／民族／文化（芳賀ライブラリー）〈クレオ〉写真ⒷⒸ芳賀日出男○HERBS(KATHI KEVILLE)〈CRESCENT〉写真Ⓦ○スリランカの祭（岩田慶治・井狩彌介・鈴木正崇・関根康正）〈工作舎〉写真Ⓙ○建築文化No.564〈彰国社〉写真Ⓔ北田英治

※以上のうち○印の文献からは写真図版を転用させていただきました。お礼申し上げます。

■ワークショップ＆フィールドワークの記録

H5	8／11	発会	
	8／30	検討会「夏の味覚」	
	9／27	聞き書き打ち合わせ	
	10／26	津金地区聞き書き	
	10／27	増富地区聞き書き	❶
	11／10	江草地区聞き書き	
	11／11	穂足・若神子聞き書き	
	11／12	「秋の味覚」	❷
	12／13	検討会	
H6	1／15	まゆ玉作り	❸
	1／26	「冬の味覚」	
	3／7	検討会	
	4／13	「春の味覚」	❹
	6／25	聞き歩き打ち合わせ	
	7／14	津金地区聞き歩き	❺
	7／15	増富地区聞き歩き	
	7／30	若神子地区聞き歩き	❻
	8／9	江草地区聞き歩き	
	8／10	多麻・穂足聞き歩き	❼❽
	7／26	「夏の味覚」	
	12／7	「秋の味覚」	
H7	1／31	「冬の味覚」	
		編集作業～	

■フィールドワークスタッフ「須玉の食文化を考える会」

【会　員】

○会長　有井　喜枝

◇小尾　東子　・小澤しな江　藤原巳代子
津金たまじ　浅川とみ子　◇中田富美子
・河手　昭子　矢崎かわえ　成島　淑子
矢崎たけじ　成島　薫　伊藤　秀香
岩下　豊子　赤岡　幸代　赤岡きよみ
坂本志ま子　◇内藤　信子　・藤巻ひさの
桜井　元子　向井　直子　植松　淑子
勝川　信子　依田　親子　◇里吉　洋子
・宮崎都久子　林　たか　宮崎　雪江
山口　続子　宮崎　房子　◇奥水よしの
・篠原　裕子　清水　清　奥水　辰巳
藤原きぬえ　篠原八重子　日向　善実
小澤　良美　清水　昭子　藤原百合江
藤原　厚子　篠原　裕子　◇丸山　信恵
・井上十四子　小澤　和子　小林　秋子
八巻　淑子　大柴かつみ　藤原　和子
藤原　玉枝　藤原　初代　内藤　和子

◇副会長　・地区連絡員

■取材協力＆資料提供

・近藤　信行　・山本ひろ子　・ぱく きょんみ
・高橋茅香子　・池原　真　・饗庭　伸

・オーストリア大使館・スカンジナビア政府観光局・スイス政府観光局・ポーランド大使館・スペイン大使館・ポルトガル大使館投資観光貿易振興庁・キプロス政府観光局・イスラエル大使館・エジプト大使館・トルコ大使館・モロッコ大使館・インド大使館・タイ大使館・中国大使館・台湾観光協会・アイスランド領事館・アイルランド大使館・フィンランド大使館・甲斐路青年塾（山梨県県民生活課）

（敬称は略させていただきました。お礼申し上げます。）

■専門サポートスタッフ

◆企画調査編集
・〈食〉研究工房　林　のり子　北村　恵理　饗庭真理子　北村　公伸
春井　裕　磯崎　幹
・内藤　和子　・高橋　辰雄　・小俣　佳子　・牛山　俊男

◆英文翻訳　・富田　靭彦　・James Baldwin

◆デザイン
・〈KCCアートプロデュース〉高橋　辰雄　R.S　・花輪まゆ美（イラストレーション）

フィールドワーク　1993～1995

須玉の食ごよみ

Sutama Fest and Food Almanac

発行　須玉町教育委員会、「須玉の食文化を考える会」　1996.8　第二版　¥1,000

◆連絡先／〈食〉研究工房　〒158 東京都世田谷区玉川田園調布2-12-6　TEL03-3722-1727／KCCアートプロデュース　〒400 甲府市青沼1-3-19　TEL0552-32-7603／須玉町教育委員会　〒408-01 山梨県北巨摩郡須玉町若神子2155　TEL0551-42-2111

※「須玉の食ごよみ」は、平成5年度地域づくり推進事業(山梨県県民生活課)の支援を好機に、フィールドワーク調査が始められたものです。

※〈こよみ編〉〈マップ編〉掲載のオリジナル図版の無断転用はご遠慮下さい。